

令和 2年度 行政評価事業別シート

	<input type="checkbox"/>	実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	塩崎智一
		全体計画						経費区分		-		内線	3414
事務事業名	4164 産地ブランド推進事業												
所 属	150100 産業振興部・農林課												
施 策	05012100 農業の活性化												
予算 科目	会計	01 一般会計											
	科目	060103 農林水産業費・農業費・農業振興費											
	事業	060000 産地ブランド推進事業											
事業目的						事業概要・効果							
須坂産農産物のブランドイメージの向上、新たな農産物のブランド化が求められているほか、グリーンツーリズムなど新たな農業の展開を想定した取組みが必要。						振興果樹の生産拡大による産地ブランドの構築、体験型農業をはじめとしたグリーンツーリズム・地産地消等の推進もって、ブランド化がすすむ。							

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
新農業創生活動事業補助 1団体 100千円 新品種導入事業補助 1200千円 農業体験プログラム参加者 90人	新農業創生活動事業補助 2団体 113千円 新品種導入事業補助 1200千円 農業体験プログラム参加者 106人
平成29年度 実績	平成30年度 実績
新農業創生活動事業補助 3団体 300千円 振興品種振興事業補助 1500千円 農業体験プログラム参加者 68人	新農業創生活動事業補助 3団体 300千円 振興品種振興事業補助 1500千円 農業体験プログラム参加者 33人
平成31年度 実績	令和 2年度 予定
新農業創生活動事業補助 3団体 300千円 振興品種振興事業補助 1500千円 農業体験プログラム参加者 530人	新農業創生活動事業補助 3団体 300千円 振興品種振興事業補助 1500千円 農業体験プログラム参加者 100人

指標名	グリーンツーリズム体験プログラム参加人数						
算式						単位	人
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標	100	106	106	106	106	
	実績	106	68	33	530		
指標選定の理由	農業と観光が連携することで、体験交流型農業の推進を図る。						
最終年度目標の根拠	106人（H28）の参加者を目標に維持をしていく。						
指標名							
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名							
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和 2年度 予 算
事業費		6,737	5,862
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	751	0
	地方債	0	0
	その他	410	40
一般財源		5,576	5,822
人員数(人)	正規職員	1.2	1.2
	嘱託職員	0.7	0.0
	臨時職員	0.0	0.7
人員コスト	正規職員	8,718.0	8,718.0
	嘱託職員	1,980.3	0.0
	臨時職員	0.0	908.6
	計	10,698.3	9,626.6
市民一人当たりの経費		0.3	0.3
総額		17,435.3	15,488.6

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	296	講師謝礼200、謝礼90 ほか
11節 需用費	609	消耗品64、印刷製本費545
13節 委託費	108	WEBサイト作成委託料
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	2,434	農業創生活動補助金（伝統野菜3団体）300 園芸産地育成振興対策事業補助金1,500 ほか
その他	3,290	役務費、備品購入費ほか

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	6	謝礼6
10節 需用費	451	消耗品費81、食糧費10、印刷製本費360
12節 委託費	0	
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	2,290	新農業創生活動補助金300 園芸産地育成振興対策補助金1,500 ほか
その他	3,115	旅費392、役務費75 ほか

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	必要不可欠
評価コメント	伝統野菜生産団体の維持や振興果樹の拡大により産地のブランド化が図れる。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	大変有効
評価コメント	県元気づくり支援金活用事業（農泊の推進）については、令和元年東日本台風の影響により開催はできないイベントもあったが、農泊シンポジウムを行うなど、農家の受入れ体制の強化に向け一歩ずつ進んでいる。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	向上
評価コメント	県元気づくり支援金の活用やパンフレットに広告枠を導入するなど財源確保に務めている。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

農業体験や交流事業など、大規模な学校や団体の受入れが整っていない。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
農作物の有利販売を展開するためにはブランド化し付加価値をつけることが重要であり、今後も進める。		地産地消、産地ブランド化に有効な事業である。農業体験プログラムも定着してきている。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	